

令和5年度取組状況

ものづくり工学科 AIスマート／生産システム工学コース

准教授 伊藤 聡史

取 組 状 況

教育	AIスマート工学実験実習Ⅱ(3年)のテーマについて、立ち上げを行った。ここでは過年度の2年次に設計したデータを図面化→製作→評価する形の授業を展開し、大きな問題もなく運営することができた。テーマ運営においては、2年製図担当者との意見交換も行うことができたため、今後も立案からアウトプットを身に付けさせるためのテーマとしてブラッシュアップを図っていきたい。デジタルファブリケーション機器のマシニングセンタの特徴やデータの扱いなどを学習するための、新規実験テーマの開発についての調査を行った。具体的には、超小型射出成型機を導入して、金型のCAD/CAMから実切削を行って実際に成型をすることで、一連の過程の評価を行える形を考えたが、実験実習枠の割当やAIスマート工学コースのカリキュラム優先度をコース内で協議してテーマ採用は見送る形となった。
研究	前年度から引き続き、材料表面の微細加工による摩擦・摩耗挙動への影響に関する研究(東京海洋大学共同研究)および、フレッチングにおける特異摩耗現象の解明に関する研究に当たった。今年度については共同研究先と現状での推進可能テーマについて意見交換を行うことができた(3回)。現状でこちらの研究環境が不足しており、具体的な協力を進めることが困難でなため、先方の要請を最低限度満たせる形の環境整備を2～3年計画で推進していくことを確認した。 今年度の論文、学会発表などの実績はない。
社会貢献	1.若手技術者支援講座 機械設計のための基礎 講師 2.熱処理技能検定検定員